

業務要件定義成果物サンプル&ガイド
DG-206：データフロー

第1.10版

2018年08月29日

1. 概要

業務データの流れを業務プロセスと紐付けて階層構造で可視化する。

まず、概要レベル（システム単位）のデータフローにより、業務全体像を可視化する。

次に、上位階層のプロセス単位に詳細レベルのデータフローを作成することにより、業務を階層的に詳細化する。

※DFD記述方法については、「技法ガイド（DFD記述ガイド編）」も参照。

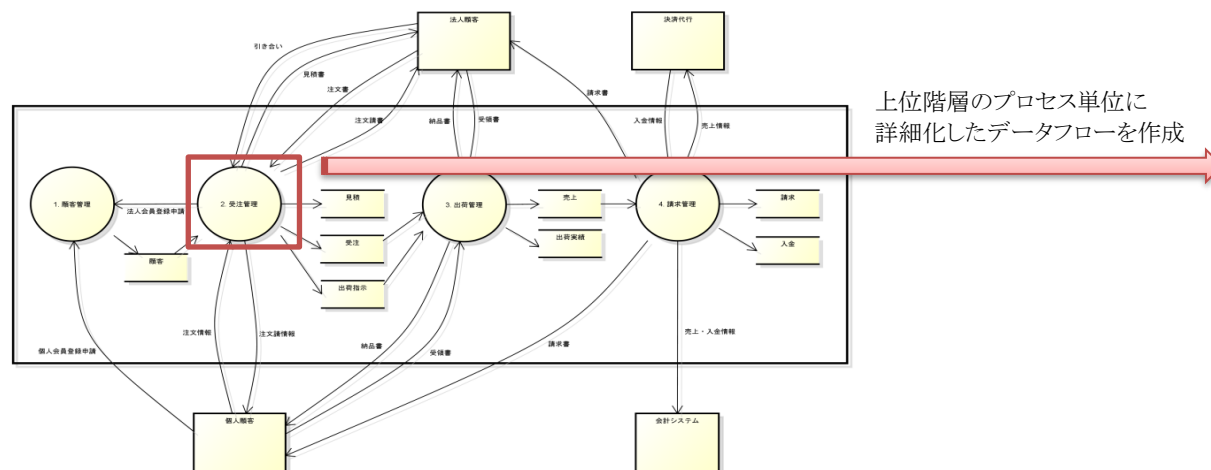


図1. 概要レベル(システム単位)のデータフロー

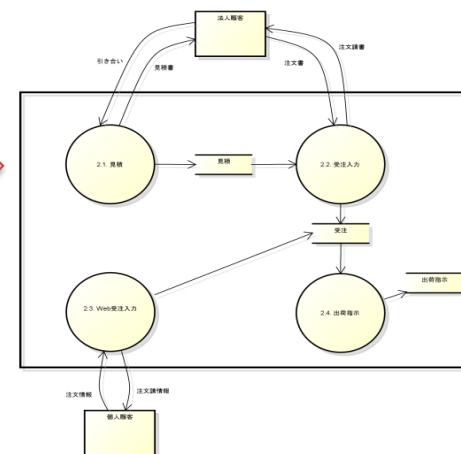

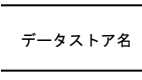
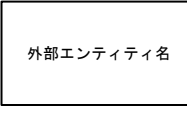
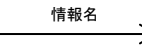


図2. 詳細レベル(プロセス単位)のデータフロー

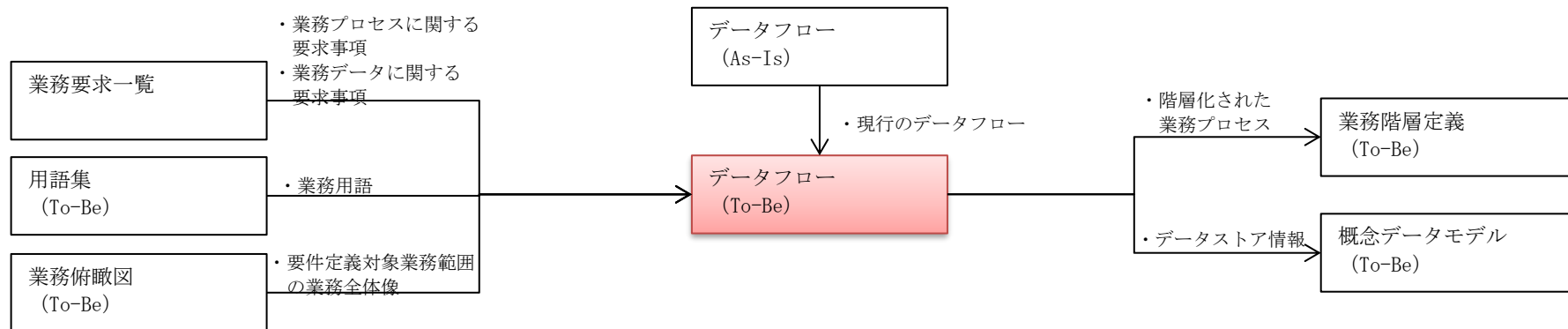
2. 使途

- お客様と以下を合意する。
 - ・ データフローで定義された業務プロセスと業務データの流れの関係が、お客さま業務と整合していること。
- 上位階層から下位階層へと徐々に詳細化した業務プロセスをインプットに、業務を階層的・構造的に分析する。
- データフローのデータストアをインプットに、概念データモデルの概念エンティティを検討する。

3. 記入要領

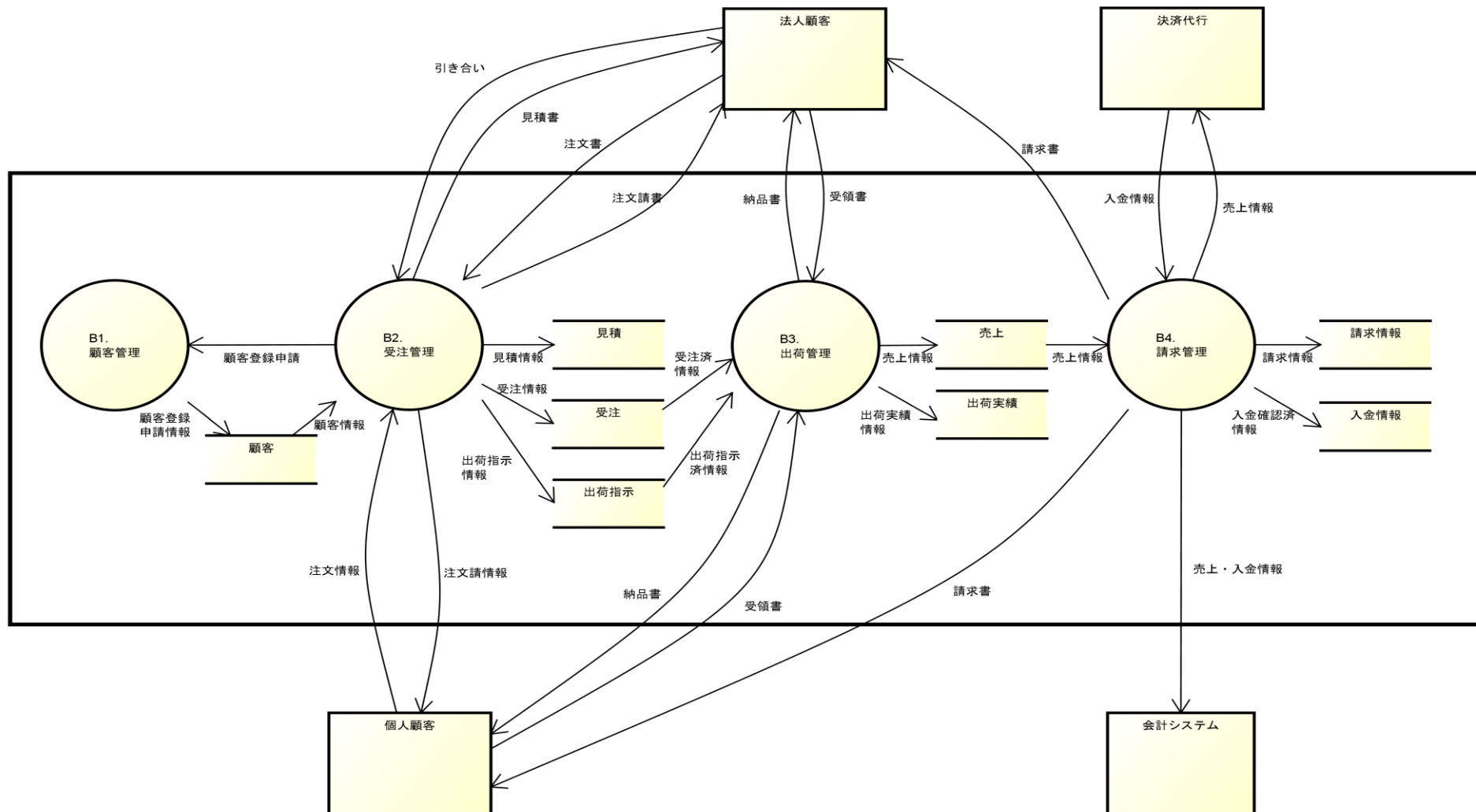
No	記述内容	記述内容説明	表記例 (DFD：デマルコ式)	補足
1	プロセス	入力データに対する処理内容を表すプロセス名を記述する。		※プロセスIDとプロセス名は、業務階層定義の業務IDと業務名と整合させる。
2	データストア	データの保管場所となるデータストア名を記述する。		
3	外部エンティティ	システム外部に存在するもの（外部システムや人など）の名称を記述する。		
4	データフロー	データの流れを記述する。		

4. 他成果物との関係



5. 表記例

1. データフロー（概要レベル）



2. データフロー（詳細レベル）

2-1. 受注管理

